

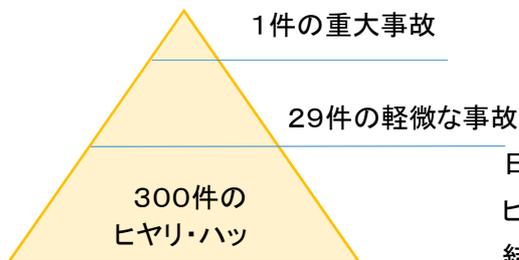
安全回覧板

第5号

平成28年2月22日

ハインリッヒの法則

1件の大きな事故・災害の裏には29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリ・ハット(事故には至らなかったもののヒヤッと、ハッとした事例)があるとされています。重大事故の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要です。



日々の交通情報や道路情報と同じようにヒヤリ・ハットの情報をみんなで共有することが結果的に自分を守り、みんなを守るのです。

運転疲労の三大症状

- ①注意力の低下 ②疲労感の増大 ③眠気

- ・体がだるい
- ・(あくび)がでる
- ・右ハンドルでは右肩が下がる
- ・目を(ショボショボ)させる
- ・眠くなる
- ・車のスピードが不安定(波状運転)
- ・ハンドルの扱いがふらつく

運転疲労の兆候

- ・目がチラチラする
- ・まぶたがピクピクする
- ・足がだるくなる
- ・足腰が重い感じになる
- ・腕や手首が痛くなる
- ・頭が重くなったり痛くなる
- ・全身がだるくなってくる
- ・動作がぎこちない

身体的疲労の兆候

このような兆候が現れたら、安全な場所に駐車して【一休み】

今週の安全行動指針

<危険を予測した運転>

(交通場面に潜む危険を的確に予測「かもしれない」して、それを回避する運転をする。)

* 自転車の特性をしる *

- ①住宅街では小さな交差点や脇道などから安全確認せず飛び出してくる
- ②信号の変わり目に、自転車がスピードを上げて横断してくることがある
- ③合図なしで進路変更してくるのが大半、従って自転車の進路の先や後ろを振り返るなど自転車の行為に注意
- ④高齢者の乗っている自転車・雨の日に傘をさしている自転車・車道を猛スピード走る自転車に注意
- ⑤夜間の無灯火の自転車に注意、ヘッドライトの照射範囲内(約40m)で停止できる速度で走行

ヒヤリ・ハット記入欄

サイン・押印欄

無事故継続日数: 220日

共同運輸倉庫株式会社